

二の丸（曲輪、佐和口多聞櫓、馬屋）

二の丸と他門櫓

二の丸は、内堀と中堀の間にある城郭の一部で馬小屋も備えていた。多門櫓は長屋のように長い要塞型貯蔵庫で、主要ないくつかの門を防御するために中壕に面して建てられた。この2階建ての櫓の両側は、内部と外部の門の間に長方形の枡形に隣接しており、敵軍に発見されないように自軍の兵士たちを集結させることができた。枡形は城にとって重要な防御機能でもあった。1対の城門を直角になるよう設定することで、防御側は攻撃側の進行方向を強制的に回転させ、敵軍の側面を露出させることが可能であった。枡形を通過するとき、攻撃者は、内壁に並んでいるライフル用の□の狭間と△の弓矢の狭間からの攻撃にさらされた。

もともと1622年に建設された左の櫓は、1767年に火災で焼却したが、1769年から1771年に再建された。右の櫓は1960年にコンクリート造りで再建された。

馬屋

馬屋は表門の外にあり、彦根藩主が所有する21頭もの馬が収容されていた。これらの馬は藩主とその客が使用できるように準備されていたが、別の小さな馬屋が藩主の住居である表御殿の近くにもあった。もはや日本に本格的な戦争がなくなった江戸時代（1603～1867）でさえ、大名や武士にとって馬術は不可欠なスキルの一つであると考えられていた。特に、彦根城の馬屋は日本で現存する唯一城内に存在している馬屋である。